公益社団法人日本看護科学学会　2025年11月社員総会　議案書

日　時　2025 年 11 月 30（日）13：00～15：00（予定）
場　所　オンライン開催　公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

I.　開　会

II.　理事長挨拶

III. 第45回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V.　理事長の所信表明

VI. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VII.　審議事項

第1号議案　会員資格基準の変更

VIII. 閉　会

公益社団法人日本看護科学学会　役員

理 事 長　酒井 郁子

副理事長　吉沢 豊予子

理　事 ： 荒尾 晴惠、大久保 暢子、亀井 智子、萱間 真美、黒河内 仙奈、
グレッグ 美鈴、島田 陽子、西村 ユミ、任 和子、春名 めぐみ、
山川 みやえ、山本 則子、横田 慎一郎

監　事 ： 井部 俊子、数間 恵子

名誉会員

阿曽 洋子、稲岡 文昭、氏家 幸子、金川 克子、川嶋 みどり、川村 佐和子、
小玉 香津子、小山 眞理子、近藤 潤子、島内 節、新道 幸惠、中島 紀惠子、
中村 惠子、林 滋子、林 優子、菱沼 典子、松野 かほる、南 裕子、矢野 正子

賛助会員

株式会社医学書院、 医歯薬出版株式会社、株式会社エス・エム・エス、
株式会社看護の科学新社、株式会社南江堂、株式会社日本看護協会出版会、
株式会社へるす出版、株式会社ユピア

（以上、五十音順・2025 年 10 月 31 日現在）

日本看護科学学会学術集会会長

第 45 回学術集会会長	第 46 回学術集会会長	第 47 回学術集会会長
有森 直子	西村 ユミ	田髙 悦子

社員

【北海道】
青柳 道子
上田 泉
河口 てる子
川村 三希子
今野 美紀
定廣 和香子
澤田 いずみ
城丸 瑞恵
鷲見 尚己
照井 レナ
長谷川 真澄
樋之津 淳子
三国 久美
山田 律子

【東北】
アンガホッファ 司寿子
安齋 由貴子
安保 寛明
大森 純子
角濱 春美
金子 さゆり
菅野 恵美
小林 淳子
坂本 祐子
佐藤 冨美子
佐藤 和佳子
塩飽 仁
高橋 和子
高橋 有里
鄭 佳紅
中村 康香
福島 裕子
藤田 あけみ
布施 淳子
吉沢 豊予子

【関東 A】
粟生田 友子
飯岡 由紀子
池内 彰子
牛久保 美津子
大澤 真奈美
岡 美智代
恩幣 宏美
角田 直枝
金泉 志保美
上山 真美
國清 恭子
近藤 由香
齋藤 基
清水 裕子
鈴木 幸子
添田 啓子
高井 ゆかり
野崎 真奈美
橋本 晴美
服部 美香
東 めぐみ
堀越 政孝
松田 安弘
水野 道代
村井 文江
山下 暢子
吉田 久美子
涌水 理恵

【関東 B】
有本 梓
飯田 貴映子
池崎 澄江
石井 邦子
石丸 美奈
岡田 忍
小黒 道子
落合 亮太
数間 恵子
勝山 貴美子
叶谷 由佳
川名 るり
黒田 久美子
小池 智子
斉藤 しのぶ
酒井 郁子
櫻井 しのぶ
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
茂野 香おる
島袋 香子
清水 準一
諏訪 さゆり
高橋 良幸
谷口 千絵
谷本 真理子
田母神 裕美
中山 登志子
別府 千恵
水戸 優子
宮芝 智子
宮本 千津子
村上 明美
村中 陽子
森 明子
湯浅 美千代
吉田 澄恵
和住 淑子
渡邊 千登世

【東京 A】
麻原 きよみ
五十嵐 歩
池田 真理
井部 俊子
大久保 暢子
大田 えりか
奥 裕美
小山田 恭子
片岡 弥恵子
北村 言
坂本 すが
佐々木 美奈子
習田 明裕
鶴若 麻理
仲上 豪二朗
中山 和弘
西村 ユミ
林 直子
春名 めぐみ
宮本 有紀
麦田 裕子
山本 則子
吉岡 京子
米澤 かおり

【東京 B】
秋山 正子
池亀 俊美
井村 真澄
井本 寛子
江本 リナ
岡谷 恵子
小川 久貴子
小澤 三枝子
萱間 真美
川原 由佳里
来生 奈巳子
草間 朋子
小林 信
坂井 志麻
佐藤 正美
田中 孝美
筒井 真優美
寺岡 征太郎
野末 聖香
濱田 由紀
福井 トシ子
藤田 淳子
本田 彰子
三浦 英恵
森 千鶴
森 真喜子
矢ヶ崎 香
矢富 有見子

【甲信越】
浅野 美礼
有森 直子
内山 美枝子
小林 康江
坂井 さゆり
下里 誠二
竹内 幸江
谷口 珠実
中込 さと子
八尋 道子
山崎 章恵
渡辺 みどり

【北陸】
稲垣 美智子
大江 真琴
大桒 麻由美
表 志津子
加藤 真由美
川島 和代
紺家 千津子
多崎 恵子
田中 浩二
牧野 智恵
四谷 淳子

【東海】
秋山 智弥
浅野 みどり
安藤 詳子
石川 かおり
市江 和子
宇城 令
大石 ふみ子
大島 千佳
大島 弓子
岡田 摩理
片岡 純
片岡 三佳
片山 はるみ
鎌倉 やよい
木戸 芳史
小松 万喜子
坂本 真理子
佐藤 一樹
佐藤 直美
篠崎 恵美子
白尾 久美子
白鳥 さつき
髙植 幸子
玉田 章
辻川 真弓
新家 一輝
野口 眞弓
服部 淳子
原沢 優子
藤井 徹也
藤野 あゆみ
操 華子
箕浦 哲嗣
百瀬 由美子
山田 聡子
脇坂 浩
渡井 いずみ
渡邉 順子

【近畿 A】
青山 ヒフミ
赤澤 千春
東 ますみ
荒尾 晴恵
池田 清子
池西 悦子
井上 智子
ウィリアムソン 彰子
上野 昌江
内 正子
宇都宮 明美
大野 かおり
大野 ゆう子
勝原 裕美子
加藤 令子
神﨑 初美
北村 愛子
久米 弥寿子
グライナー 智恵子
河野 あゆみ
小西 美和子
近藤 麻理
坂下 玲子
鈴木 志津枝
瀬戸 奈津子
高橋 弘枝
高見沢 恵美子
田中 京子
玉木 敦子
都筑 千景
二宮 啓子
林 千冬
武用 百子
細田 泰子
前川 幸子
宮脇 郁子
森 菊子
安酸 史子
山川 みやえ
山崎 あけみ
山本 あい子

【近畿 B】
吾妻 知美
荒川 千登世
糸島 陽子
伊波 早苗
上野 栄一
荻田 美穂子
片山 由加里
黒江 ゆり子
竹之内 沙弥香
田村 恵子
當目 雅代
奈良間 美保
任 和子
野島 敬祐
本田 可奈子
光木 幸子
毛利 貴子
吉岡 さおり

【中国・四国】

吾郷 美奈恵
畦地 博子
井伊 久美子
池添 志乃
石橋 照子
市原 多香子
伊東 美佐江
今井 多樹子
岩佐 幸恵
大川 宣容
大平 光子
岡田 淳子
折山 早苗
國方 弘子
久保田 聰美
黒田 寿美恵
佐伯 由香
陶山 啓子
高瀬 美由紀
田中 愛子
田中 マキ子
谷垣 靜子
田村 由美
永井 眞由美
中野 綾美
名越 恵美
野嶋 佐由美
原 祥子
百田 武司
深井 喜代子
深田 美香
松本 啓子
森下 安子
森本 美智子
山田 覚

末次 典恵
竹熊 千晶
田中 美智子
藤内 美保
中尾 久子
野間口 千香穂
橋口 暢子
鳩野 洋子
花田 妙子
濵田 裕子
平野 かよ子
藤野 成美
藤野 ユリ子
増滿 誠
益守 かづき
三重野 英子
三橋 睦子
宮園 真美
宮林 郁子
村田 節子
分島 るり子

（以上、340 名
地区別
五十音順）

【九州・沖縄】
飯野 英親
江藤 宏美
尾形 由起子
金岡 麻希
神里 みどり
木下 由美子
倉岡 有美子
グレッグ 美鈴
黒田 裕美
古賀 明美
小林 裕美

（2025 年 10 月 31 日現在）

総務報告

1.　会員推移（2025年4月1日～2025年10月10日）

	正会員	学生会員	名誉会員	賛助
2025年3月31日（2024年度末）	10548	―	22	4
自主退会	-498	―	―	―
会費未納退会	-256	―	―	―
2025年4月1日（2025年度）	9794	―	22	4
新規入会	679	34	―	4
再入会	99	―	―	―
会員区分変更	-8	8	―	―
死亡喪失	-2	―	-3	―
2025年10月10日現在	10562	42	19	8

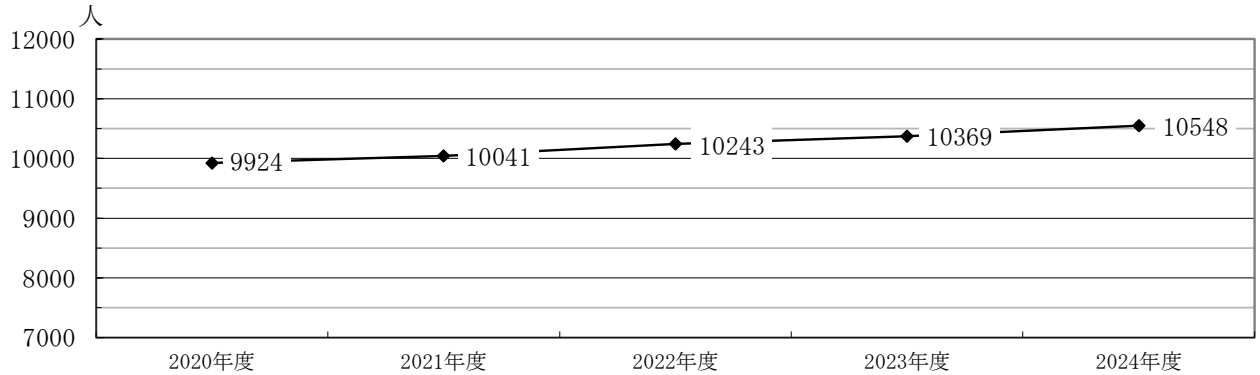
2.　代議員選挙地区別正会員数　（2025年10月10日　会員数10,562）

地区	都道府県	正会員数
北海道 414	北海道	414
東北 557	青森	113
	岩手	87
	宮城	176
	秋田	67
	山形	59
	福島	55
関東A 884	茨城	167
	栃木	140
	群馬	186
	埼玉	391
関東B 1246	千葉	619
	神奈川	627
東京A 738	※1	738
東京B 821	※2	821
甲信越 399	新潟	166
	長野	156
	山梨	77
北陸 350	富山	92
	石川	183
	福井	75
東海 1185	静岡	221
	愛知	608
	岐阜	195
	三重	161
近畿A 1247	大阪	712
	兵庫	535
近畿B 598	滋賀	134
	京都	283
	奈良	108
	和歌山	73
中国・四国 1046	鳥取	42
	島根	51
	岡山	186
	広島	288
	山口	116
	徳島	60
	香川	69
	愛媛	114
	高知	120
九州・沖縄 1043	福岡	503
	佐賀	61
	長崎	65
	熊本	102
	大分	62
	宮崎	78
	鹿児島	88
	沖縄	84
宛先不明者		34
合計		10,562

※1　千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区島しょ、海外

※2　渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、 豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3.　正会員数の推移（年度別）



公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

（2025 年 4 月 1 日～2025 年 11 月 30 日）

2025 年度第 1 回理事会

日　時：2025 年 5 月 20 日（火）13：00～15：15

場　所：オンライン開催　日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14　ディアマントビル 6 階）

出席者：理事 15 名、監事 2 名、選挙管理委員長 1 名、第 45 回学術集会会長、第 46 回学術集会会長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 2025 年理事候補者選挙　報告（選挙管理委員会）
2. 第 45 回日本看護科学学会学術集会（JANS45）の準備状況
3. 第 46 回日本看護科学学会学術集会（JANS46）の準備状況
4. 総務会からの提案・報告
5. 入会希望者の承認
6. 2025 年 6 月定時社員総会の議案の承認と進行の確認
7. 会計報告（各委員会からの報告および審議事項と予算執行状況について）
8. 審議のある委員会
   1) 研究・学術推進委員会
   2) 若手研究者助成選考委員会
   3) 若手研究者活動推進委員会
   4) 他機関との連携（日本看護系学会協議会）
9. 報告のある委員会
   1) （和文誌編集委員会）報告なし
   2) 英文誌編集委員会
   3) 表彰論文選考委員会
   4) 研究・学術推進委員会
   5) 看護ケア開発・標準化委員会
   6) 若手研究者活動推進委員会
   7) 国際活動推進委員会
   8) 看護学学術用語検討委員会
   9) 社会貢献委員会
   10) 広報委員会
   11) 看護倫理検討委員会

12）（利益相反委員会）報告なし

13）（研究倫理審査委員会）報告なし

14）（災害看護支援委員会）報告なし

15）若手研究者助成選考委員会

16）（会則等委員会）報告なし

17）（COVID-19 看護研究等対策委員会）報告なし

18）総務委員会

19）研究助成選考委員会

10. その他　他団体との連携について

①日本看護系学会協議会

②看護系学会等社会保険連合（看保連）

③日本学術会議

④その他の団体

11. 連絡事項

2025 年度第 2 回理事会

日　時：2025 年 6 月 21 日（土）10：00～11：42

場　所：AP 日本橋　6 階　Room D　（〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント 6F）

出席者：理事 11 名、監事 2 名、第 45 回学術集会会長、第 46 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 45 回日本看護科学学会学術集会（JANS45）の準備状況
2. 第 46 回日本看護科学学会学術集会（JANS46）の準備状況
3. 総務会からの提案・報告
4. 2025 年 6 月定時社員総会の議案と進行分担表の確認
5. 入会希望者の承認
6. 審議のある委員会
7. 報告のある委員会
8. その他

2025 年度臨時理事会

日　時：2025 年 6 月 21 日（日）15：15～16：00

場　所：AP 日本橋 6 階 RoomD　（〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-6-2　日本橋フロント 6F）

出席者：理事 11 名、監事 2 名

〈審議事項〉

1. 理事長（代表理事）、副理事長の承認

2025 年度臨時理事会

日　時：2025 年 7 月 18 日（金）14：30～16：12

場　所：オンライン開催　日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14　ディアマントビル 6 階）

出席者：理事 15 名、監事 2 名、第 46 回学術集会会長　※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第 46 回日本看護科学学会学術集会（JANS46）の準備状況
2. 今期理事会方針について
3. 会務分掌および委員の承認
4. 総務会からの提案・報告
5. 2025 年度 各委員会予算・執行状況
6. 審議のある委員会
7. 報告のある委員会
8. その他
9. 連絡事項

2025 年度第 3 回理事会

日　時：2025 年 8 月 29 日（金）15：00～17：00

場　所：オンライン開催　日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14　ディアマントビル 6 階）

出席者：理事 12 名、監事 2 名、第 45 回学術集会会長、第 46 回学術集会事務局長（会長代理）

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第 45 回日本看護科学学会学術集会（JANS45）の準備状況
2. 第 46 回日本看護科学学会学術集会（JANS46）の準備状況
3. 入会希望者の承認
4. 会計報告（2025 年度各委員会予算執行率・予算執行状況）
5. 審議事項（総務会、委員会の審議）
6. 報告事項（委員会、他機関との連携の報告）
7. その他
8. 連絡事項

2025 年度書面理事会

日　時：2025 年 9 月 18（木）

場　所：メールによる審議　日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14　ディアマントビル 6 階）

出席者：理事 15 名、監事 2 名（※全員のメール承認）

〈審議事項〉

1. 議案:「看護ケアのための高齢者排尿促進法(Prompted Voiding:PV)(診療)ガイドライン(仮)作成組織構成メンバー」への再委嘱等について

2025 年度第 4 回理事会

日　時：2025 年 10 月 28 日（火）13：00～15：00

場　所：オンライン開催　日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14　ディアマントビル 6 階）

出席者：理事 13 名、監事 2 名、第 45 回学術集会会長、第 46 回学術集会事務局長

※全出席者オンライン参加

〈審議事項〉

1. 第 45 回日本看護科学学会学術集会（JANS45）の準備状況
2. 第 46 回日本看護科学学会学術集会（JANS46）の準備状況
3. 入会希望者の承認
4. 会計報告（2025 年度各委員会予算執行率・予算執行状況）
5. 審議事項（総務会、委員会の審議）
6. 報告事項（委員会、他機関との連携の報告）
7. その他
8. 連絡事項

2025 年度第 5 回理事会

日　時：2025 年 11 月 30 日（日）10：00～12：00（予定）

場　所：オンライン開催　日本看護科学学会事務所

（東京都千代田区神田須田町 1-5-14　ディアマントビル 6 階）

出席者：理事 15 名、監事 2 名（予定）

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案・報告
2. 2025 年 12 月社員総会の資料と進行の確認

3. 第 45 回学会総会の資料と進行の確認
4. 入会希望者の承認
5. 審議のある委員会
6. 報告のある委員会
7. その他

公益社団法人日本看護科学学会　2025-2027年度委員会名簿

※所属機関名は2025年9月30日現在の会員登録データに基づいています

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長／編集長	亀井智子	聖路加国際大学大学院
	編集長	宮本有紀	東京大学大学院
	編集長	山崎あけみ	大阪大学大学院
		飯島佐知子	順天堂大学
		市原多香子	香川大学
		糸井和佳	帝京科学大学
		大澤真奈美	群馬県立県民健康科学大学
		大田えりか	聖路加国際大学大学院
		小笹由香	東京科学大学大学院
		小山田恭子	聖路加国際大学
		片山陽子	香川県立保健医療大学
		川原由佳里	日本赤十字看護大学
		倉岡有美子	令和健康科学大学
		黒田寿美恵	県立広島大学
		定廣和香子	日本赤十字北海道看護大学
		佐藤伊織	東京科学大学
		菅原啓太	三重県立看護大学
		杉山文乃	国立看護大学校
		谷口千絵	神奈川県立保健福祉大学
		都筑千景	大阪公立大学
		中村幸代	横浜市立大学
		新家一輝	名古屋大学大学院
		野島敬祐	京都橘大学
		橋口暢子	九州大学大学院
		長谷川真澄	札幌医科大学
		檜山明子	札幌市立大学
		藤野成美	佐賀大学
		松本啓子	香川大学
		三浦英恵	日本赤十字看護大学
		麦田裕子	東京大学大学院
		矢ヶ崎香	慶應義塾大学
		米倉佑貴	聖路加国際大学大学院
	会計	加澤佳奈	岡山大学
英文誌編集	委員長	グレッグ美鈴	名桜大学大学院
	編集長	WILLIAM L. HOLZEMER	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing
		朝倉京子	東北大学大学院
		石原逸子	大阪歯科大学
		上田佳世	長崎大学
		加澤佳奈	岡山大学
		加藤憲司	神戸女子大学
		菊池良太	滋賀医科大学大学院
		木戸芳史	浜松医科大学
		グライナー智恵子	神戸大学大学院
		コリー紀代	北海道大学大学院
		近藤暁子	東京科学大学
		笹川恵美	日本赤十字看護大学
		佐藤奈保	千葉大学大学院
		副島尭史	神戸大学大学院
		田中準一	長崎大学
		千葉由美	横浜市立大学
		月野木ルミ	東京科学大学
		角田秋	東京有明医療大学
		深井喜代子	東京慈恵会医科大学大学院
		藤田君支	九州大学大学院
		藤田和佳子	神戸大学大学院
		堀内成子	聖路加国際大学
		眞嶋朋子	千葉大学大学院
		松永由理子	佐賀大学
		操華子	静岡県立大学
		村上好恵	慶應義塾大学
		村山陵子	藤田医科大学
		山川みやえ	大阪大学大学院
		米澤かおり	東京大学大学院
	会計	江藤宏美	長崎大学

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
表彰論文選考	委員長	荒尾晴恵	大阪大学大学院
		亀井智子	聖路加国際大学大学院
		グレッグ美鈴	名桜大学大学院
		坂下玲子	兵庫県立大学
		佐竹陽子	大阪公立大学大学院
		田中美智子	宮崎県立看護大学
		鄭佳紅	山梨県立大学
		林直子	聖路加国際大学
		福島裕子	岩手県立大学
		堀越政孝	群馬パース大学
		宮下光令	東北大学大学院
		宮脇郁子	神戸大学大学院
		師岡友紀	武庫川女子大学
		渡邊浩子	大阪大学大学院
	会計	野間口千香穂	宮崎大学
研究・学術推進	委員長	横田慎一郎	千葉大学
		五十嵐歩	千葉大学
		黒澤昌洋	愛知医科大学
		佐伯昌俊	千葉大学大学院
		清水準一	東京医療保健大学
		高橋良幸	東邦大学
		本田順子	兵庫県立大学
		吉岡京子	東京大学大学院
		米澤かおり	東京大学大学院
		涌水理恵	筑波大学大学院
	会計	伊藤沙紀子	東京科学大学大学院
看護ケア開発・標準化	委員長	山川みやえ	大阪大学大学院
	副委員長	西村ユミ	東京都立大学
		植木慎悟	九州大学大学院
		佐藤和佳子	獨協医科大学
		樋上容子	大阪医科薬科大学
	会計	内海桃絵	京都府立医科大学
若手研究者活動推進	委員長	横田慎一郎	千葉大学
		五十嵐歩	千葉大学
		黒澤昌洋	愛知医科大学
		佐伯昌俊	千葉大学大学院
		清水準一	東京医療保健大学
		高橋良幸	東邦大学
		本田順子	兵庫県立大学
		吉岡京子	東京大学大学院
		米澤かおり	東京大学大学院
		涌水理恵	筑波大学大学院
	会計	伊藤沙紀子	東京科学大学大学院
国際活動推進	委員長	春名めぐみ	東京大学大学院
		小黒道子	東京医療保健大学
		金井PAK雅子	関東学院大学
		竹之内沙弥香	京都大学大学院
		操華子	静岡県立大学
		村本美由希	東京大学大学院
		柳澤理子	愛知県立大学
	会計	宮本有紀	東京大学大学院
看護学学術用語検討	委員長	大久保暢子	聖路加国際大学
		小黒道子	東京医療保健大学
		小山田恭子	聖路加国際大学
		亀田典宏	東京科学大学
		三浦友理子	浜松医科大学
		山川みやえ	大阪大学大学院
		吉永尚紀	宮崎大学
	会計	蜂ヶ崎令子	東邦大学

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
社会貢献推進委員会	委員長	西村ユミ	東京都立大学
	副委員長	大久保暢子	聖路加国際大学
		荒尾博美	熊本保健科学大学
		有森直子	新潟大学
		宇都宮明美	関西医科大学
		賀数勝太	聖路加国際大学
		神崎初美	兵庫医科大学
		佐々木杏子	神奈川県立保健福祉大学
		塩飽仁	東北大学大学院
		藤野ユリ子	福岡女学院看護大学
		細野知子	日本赤十字看護大学
		松石雄二朗	東京情報大学
		横野知江	新潟大学
	会計	福井里美	東京都立大学
看護倫理検討	委員長	任和子	京都大学大学院
		勝山貴美子	横浜市立大学
		竹之内沙弥香	京都大学大学院
		鶴若麻理	聖路加国際大学
		飛田伊都子	大阪医科薬科大学
		光木幸子	同志社女子大学
	会計	森西可菜子	京都大学大学院
利益相反	委員長	山本則子	東京大学大学院
		國清恭子	群馬大学大学院
		角川由香	東京大学
		任和子	京都大学大学院
		藤田あけみ	弘前大学大学院
	会計	沼田華子	東京大学大学院
	外部委員	中澤栄輔	東京大学大学院
研究倫理審査	委員長	山本則子	東京大学大学院
	副委員長	大澤真奈美	群馬県立県民健康科学大学
		竹内幸江	長野県看護大学
		五十嵐歩	千葉大学
		角川由香	東京大学
	外部委員	隈本邦彦	江戸川大学
	外部委員	中澤栄輔	東京大学大学院
災害看護支援	委員長	西村ユミ	東京都立大学
		牛久保美津子	群馬大学大学院
		大野かおり	兵庫県立大学
		神原咲子	神戸市看護大学
		近藤麻理	関西医科大学
		三浦英恵	日本赤十字看護大学
	会計	國江慶子	東京都立大学大学院
若手国際化・研究助成	委員長	吉沢豊予子	関西国際大学
	副委員長	池田真理	東京大学大学院
		小林京子	聖路加国際大学大学院
		清水準一	東京医療保健大学
		高橋有里	岩手県立大学
		仲上豪二朗	東京大学大学院
		操華子	静岡県立大学
		宮本千津子	東京医療保健大学
		麦田裕子	東京大学大学院
		四谷淳子	福井大学
	外部委員	丹野義彦	日本心理学会

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
会則等	委員長	任和子	京都大学大学院
		吉沢豊予子	関西国際大学
		東ますみ	神戸女子大学
		伊波早苗	淡海医療センター
	会計	田村葉子	京都看護大学
総務	委員長	黒河内仙奈	神奈川県立保健福祉大学
		横田慎一郎	千葉大学
		三重野英子	大分大学
選挙管理	委員長 ※準備中 来年新委員		

委員会活動報告

（2025 年 1 月～12 月）

(1) 和文誌編集委員会（亀井智子理事）

学会誌（日本看護科学会誌）の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

① 日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

・日本看護科学会誌 45 巻をオンラインで発刊した。

・2025 年 1 月以降の投稿論文数は、293 編であった（2025 年 10 月現在）。

・論文公開時には会員に向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。

・表彰論文選考に参画した。

② 更なる円滑な投稿に向けての取り組み

・査読委員の任期満了に伴い、査読委員の交代を行った。2025 年 10 月就任の査読委員は 354 名である。

(2) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

日本から世界へ学術情報を発信するため 2004 年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）の発行を開始、2014 年からは online-only journal として、年 4 回の発行を実施。

① Japan Journal of Nursing Science の発行

・Japan Journal of Nursing Science Vol.22 をオンラインで発刊した。

・2025 年 1 月以降の投稿論文数は、565 編であった（2025 年 9 月末現在）。

・表彰論文選考に参画した。

・2024 年の Impact Factor は、1.6 であった（2025 年 6 月発表による）。

② 迅速査読の実施

2020 年 3 月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した（博士の学位申請、または博士の学位取得後 1 年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象）。

（2021 年 30 編・2022 年 38 編・2023 年 44 編・2024 年 43 編・2025 年 9 月末現在 37 編）

③ 編集長の国際公募の準備

現編集長 Holzemer 氏の契約満了（2026 年 12 月 31 日）に伴い、次期編集長の国際公募を 2026 年 1 月 1 日から開始するための準備を行った。公募要領は、JJNS および JANS のウェブサイトに掲載予定である。

④ 編集リスクマネジメント体制の構築

JJNS の出版活動における公正性と透明性を確保し、学術的信頼性と研究倫理を確保することを目的として、編集上のリスクマネジメント体制を検討した。

⑤ 出版社およびゴールド OA 化の検討

現在の Wiley との契約が 2026 年 12 月に終了することから、出版社の選定とゴールド OA への移行について検討を行った。

⑥ JJNS セミナーの開催

・2024 年 JJNS セミナー： Improving Your Success at Publishing in English 2024：The Challenges of International Collaborative Research をオンデマンドで開催した（2024 年 12 月 6 日～2025 年 1 月 31 日）。受講者数は、382 名（会員 381 名・非会員 1 名）であった。

・2025 年 JJNS セミナー： Artificial Intelligence (AI) in scholarly publishing をオンデマンドで開催する（2025 年 12 月中旬～2026 年 1 月末予定）。

⑦ 学術集会における委員会企画：交流集会、投稿コンサルテーション

・第 45 回学術集会において、交流集会「Responding to Reviewers: Turning Revisions into Scholarly Dialogue」を開催予定である。

・第 45 回学術集会において、投稿コンサルテーションを実施する予定である。

(3) 表彰論文選考委員会（荒尾晴惠理事）

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。学術集会演題表彰の実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦を行った。

① 表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。

・表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文 19 編（和文 9 編・英文 10 編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で評価し、優秀賞・奨励賞候補論文 7 編（和文 3 編　英文 4 編）を審査リストとして作成した。

・2025 年 9 月 3 日に、全代議員、役員 344 名にメールにて採点を依頼した。

・10 月 14 日正午までに返信された 245 件について評価点の集計を行った。回収率約 71%(245/344)。集計結果に基づき表彰論文選考委員会で最終選考を行い、以下のように優秀賞 1 編、奨励賞 2 編を決定し、理事会において承認を得た。

【優秀賞】

- 無作為化比較試験による訪問看護師向け在宅看取り教育プログラム（PENUT）の有効性の検討
  濱谷 雅子【45 歳未満】, 平原 優美, 小沼 絵理, 沼田 華子, 野口 麻衣子, 菱田 一恵, 岡本 有子, 竹森 志穂, 新幡 智子, 栗田 佳代子, 山本 則子
  日本看護科学会誌 44 巻,p. 218-227

【奨励賞】

- Effectiveness of a preceptors' social support program to aid novice nurses' error experience on preceptors' skill and novice nurses' perception of social support: A quasi-experimental study
  Misa Tomooka【45歳未満】,Chiharu Matsumoto, Hitomi Maeda
  Volume 21:1(JJNS12563)

- Development of an e-learning program for biofeedback in pelvic floor muscle training for adult women using self-performed ultrasound: An observational study
  Miyako Muta【45歳未満】,Toshiaki Takahashi, Nao Tamai, Hiromi Sanada, Gojiro Nakagami
  Volume 21:4(JJNS12609)

※本賞は会員のみ授与される

② 学術集会演題表彰の実施

第 45 回学術集会において演題表彰を実施。

賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」とし、選考は 2 段階で行った。第 1 段階では、JANS45 の演題抄録登録システムを利用して、査読者 2 名以上による採点を行い、各賞上位 4～9 演題を選考した。第 2 段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会で採点をして最終選考を行う予定である。表彰については、学術集会 2 日目に時間と場所を設定し、受賞者に賞状と記念品を渡し、理事長および表彰論文選考委員会委員長との写真撮影を行う。写真は後日学会 HP で公開する。

③ 他組織からの表彰候補者の推薦

日本学術振興会賞（第 22 回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1 名を推薦した。

(4) 研究・学術推進委員会（横田慎一郎理事）

会員の大型研究の推進に関する事業、JANS セミナーの企画・開催、学術集会における委員会の活動の報告、オンラインジャーナルクラブの検討・実施、その他の研究・学術推進に関する事業を実施した。

① 科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト

2025 年 1 月 31 日に公募を締切、審査方針に従い選考した結果、石北直之氏と山本洋美氏の 2 名を採択した。理事会での承認を経て、3 月下旬～4 月初旬に初回の顔合わせを行い支援を開始した。石北氏と山本氏に加えコリー紀代氏（2023 年度採択者）の 3 名が基盤研究 A への申請を完了した。小林京子氏（2023 年度採択者）は支援対象外の区分を希望したため、支援を実施しなかった。

② COVID-19 看護研究等対策委員会の引継ぎ事項

COVID-19 看護研究等対策委員会の業務を本委員会で引き継いだ。委員会報告をまとめ、日本看護科学会誌への投稿を完了した。また、「取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクト」について、論文投稿が未完了であった 2 チームの投稿が完了した。

③ JANS セミナーの企画・開催

第 26 回 JANS セミナー「ゼロから始めるデータベース研究：マスタをマスターする」をリアルタイム配信（2025 年 9 月 21 日 13 時半～16 時）＋オンデマンド配信（2025 年 9 月 30 日～10 月 31 日）にて開催した。申込数は、ライブ配信：823 名（会員 800 名・非会員 20 名・基礎教育課程学生 3 名）、オンデマンド配信：442 名（会員 440 名・非会員 2 名・基礎教育課程学生 0 名）である。

④ 第 45 回学術集会での交流集会の企画

第 45 回学術集会において交流集会「科研費獲得のノウハウを共有しよう：より大型の研究種目へのステップアップ」を開催する。

⑤ オンラインジャーナルクラブ

2025年3月25日（火）14:00～15:30 に開催した。定員170名（会員100名・学生20名）を設定し、当日は会員・学生を含めて154名の参加があった。

(5) 看護ケア開発・標準化委員会（山川みやえ理事）

1.エビデンスに基づく看護ケア推進体制の構築

本委員会は、看護ケアの質保証と標準化を推進するため、各学会がエビデンスに基づく看護ケアガイドライン（EBPガイドライン）を自律的に開発・普及できる体制整備を目的として、日本看護系学会協議会（JANA）との連携を強化した。

2024年10月から2025年6月には、JANA加盟学会を対象に、EBP推進およびガイドライン作成の現状や課題を把握するための調査を実施した。学会理事およびEBP担当委員に対し、ウェブアンケートおよび希望者へのインタビューを行い、ガイドライン作成経験、普及体制、必要リソース等を明らかにした。

さらに、この調査結果をもとに継続調査をJANAと共同で実施するための準備委員会に参加し、調査設計・分析計画・学会横断的課題の抽出に関する検討に加わった。これにより、JANSとJANAの協働体制が一層強化された。

2.第45回学術集会における成果共有と課題分析

調査成果およびモデル事業の進捗は、2025年12月開催の第45回日本看護科学学会学術集会 交流集会において発表する。

発表テーマは「モデル事業『看護ケアガイドライン作成』体験とJANA-JANS合同調査結果からの前進」であり、看護ケアの標準化に向けた多様な課題と展望を共有する。本集会では、Minds診療ガイドライン作成マニュアル（ver.3.0）に基づく看護ケアガイドライン開発の実際と課題、EBP推進に関する合同調査結果の追加報告を通じ、科学的根拠に基づくケア選択と意思決定支援の重要性を再確認する。

3.ガイドライン作成の推進と出版準備

2017年から継続して実施してきた「看護ケアガイドライン作成モデル事業」では、公益財団法人日本医療機能評価機構EBM医療情報事業（Minds）の作成マニュアルに準拠し、「高齢者尿失禁ケアの行動療法　排尿促進法（PV）に関する看護ケアガイドライン」の完成に向けた作業を進めた。

2025年度には以下の工程を完了または進行中である。

(1) 電子出版形式および構成案の検討
(2) 編集部体制の整備と草稿作成の継続
(3) クラウド共有環境の構築
(4) クリニカルクエスチョンの最終確定およびSRによるエビデンス抽出
(5) 推奨度決定会議による推奨度評価
(6) 統括委員会の開催
(7) 外部評価およびMinds事前評価提出の準備

ガイドラインは2026年3月の刊行を予定しており、電子書籍化を含む出版体制の整備が進んでいる。

4.関連研究と科学的基盤の強化

ガイドライン開発を支える基盤研究として、「尿失禁を有する高齢者の生活習慣（Lifestyle）介入」に関するスコーピングレビューを実施した。本レビューでは、生活習慣の改善による行動療法的アプローチの有効性を体系的に整理し、今後の推奨作成に資するエビデンスを蓄積した。

5.次年度（2026 年度）への展望

2026 年度は、2025 年度の調査・モデル事業で得られた知見を基盤として、

- 各学会におけるガイドライン開発・普及支援の体系化
- 患者・市民団体との協働による社会的普及と体験評価の仕組みづくり
- 「Choosing Wisely」キャンペーンへの看護からの具体的貢献

を重点課題とする。

また、成果の英語版ダイジェスト発行や国際学会（ICN, Sigma 等）での発表を通じ、日本の看護ケア標準化の取り組みを国際的に発信していく。

(6) 若手研究者活動推進委員会（横田慎一郎理事）

国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

① 委員会としての活動

当委員会の企画について、JANS 若手の会のページでの事前告知・事後報告等の情報発信を行った。また、JANS 若手メーリングリストより情報の発信を行い、当委員会企画の事前告知・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動やイベントに関する投稿が行われた。

② JANS セミナーの開催

第 25 回 JANS セミナー「看護学研究における患者・市民との協働 -患者・市民とともに未来を創り出そう-」（オンデマンド配信）の申込み・配信をした（配信期間：2025 年 3 月 26 日～5 月 26 日）。参加者数は 454 名（会員：449 名、非会員：1 名、学生：4 名）であった。

③ エリア検討会開催支援

JANS 若手の会 エリアコーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。開催されたエリア検討会は以下の 6 件である。第 4 回関西エリア検討会（2025 年 2 月 22 日開催）、北関東＆東海エリア合同検討会（2025 年 3 月 2 日開催）、第 7 回中四国エリア検討会（2025 年 3 月 15 日開催）、第 2 回九州・沖縄エリア検討会（2025 年 3 月 15 日開催）、第 4 回甲信越・北陸エリア検討会（2025 年 6 月 14 日開催）、第 3 回北海道エリア検討会（2025 年 8 月 24 日開催）、第 2 回南関東エリア検討会（2025 年 9 月 20 日開催）。それぞれの開催報告を JANS 若手の会ホームページ上に順次掲載した。

④ エリアコーディネーター活動の活性化

エリアコーディネーター間の交流を促すことを目的に、JANS エリアコーディネーター用 Slack ワークスペース（2022 年 3 月末開設）を引き続き運営した。エリア間およびエリア内のエリアコーディネーターの交流の場として活用された。

2025年9月1日と3日の2日程で、エリアコーディネーターと委員による意見交換会を開催した。委員5名とエリアコーディネーター28名が参加し、活発に意見交換を行った。

⑤ 第45回学術集会での交流集会の企画

第45回学術集会において交流集会「JANS若手研究者活動推進委員会主催　どうする？どうなる？少子化時代に活躍する若手研究者のキャリアデザイン」を開催予定である。

(7) 国際活動推進委員会（春名めぐみ理事）

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。

① 委員会企画　交流集会

第45回学術集会において、交流集会「国際メンターシップ・プログラムって実際どうなの？メンティの成長とメンターの気づき」を開催予定である。

② 異文化看護データベース

異文化看護データベースの更新について以前より検討していたが、全国の看護職他に利用していただいていることや、毎月平均300回のアクセスがあることが明らかになったため、当初の目的に合わせて、随時積極的に更新していく方針とした。応募サイトを掲載し、会員から募集した。2024年においては応募者17名のうち7名に依頼した。大韓民国、ブラジル、アメリカ、ミャンマー、フランス、キリスト教プロテスタント、キリスト教カトリックである。すべてのデータが提出され、委員会のメール会議で複数回の確認を経て、Websiteに更新された。

③ 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science：WANS）への協力支援

WANS学会の運営委員会からの依頼で、プログラムの演題査読者の依頼があり、メール会議において、委員会より、操華子氏およびグレッグ美鈴氏を推薦し実施した。

④ JANS若手研究者メンター制度企画

Early-career看護研究者の国際活動及び国際交流の推進並びに、看護学の発展とキャリア形成に寄与する、Early-career看護研究者を対象とした国際メンターシップ・プログラムを設立した。これは、Early-career看護研究者（メンティ）が、看護研究のエキスパート（メンター）より英語で研究のメンタリングを受ける制度である。委員の推薦と交渉により、4名の海外研究者にメンターを依頼する運びとなった。

(8) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

看護学が扱う専門用語（看護学学術用語）の概念的統一を図り、これまでに作成した用語を維持管理・普及を行うシステム構築の検討を実施。また新たな用語を検討・追加するための以下の委員会活動を行っ

た。

① JANSpedia への新用語追加の審査および英訳

・新用語の募集に関する広報を紙面ポスターならびに会員メーリングリストにて行い、募集を行った。

・申請された新用語:1 用語が申請され、現在、審査中である。

英語サイトの作成を進めるために 100 の用語と 16 の新用語の解説の英語翻訳を終え、それを委員等の看護専門家で英語の文章チェックを行った。2025 年 3 月までに全ての用語の解説の英語版が完成し、HP の改修に合わせて掲載した。

② 実装評価について(JANSpedia のアクセス分析など)

・ JANSpedia のアクセス分析、看護学学術用語の構築・実装の視点から委員会活動の評価を継続検討している。

・ 看護系研究論文や看護系大学の授業資料等で JANSpedia の用語が引用されている

・ 2022 年度～2025 年 1 月までに計 16 用語の評価を行った。

③ 看護学学術用語追加の審査システムと JANSpedia サイトの操作の両マニュアルの作成

・用語追加の審査基準や審査プロセスの統一化ならびに次期委員会への適切な引継ぎのためにマニュアル作成を行った。

・JANSpedia の電子サイトについても統一した操作を明確にするため、次期委員会への適切な引継ぎのためにマニュアルの作成を行った。

④ JANSpedia の広報フライヤーの作成

新しい広報フライヤーを作成し、社員総会で配布した。

⑤ JANSpedia のコマーシャル動画の作成作業

・現在、動画作成中であり、完成次第、HP や各学術集会で広報していく予定である。

(9) 社会貢献推進委員会（西村ユミ理事）

看護学の社会的実装・貢献活動の推進と次世代育成の基盤形成を目指す。学会声明や提言等の策定意見発出時の協働、市民向け啓発活動の実施、他領域・他職種との連携構築、次世代看護学研究者育成に向けた発信強化を行う。※2025 年 6 月より社会貢献委員会と広報委員会の統合となった。それ以前の活動も含めるため、以下のとおりそれぞれ報告する。

1.旧社会貢献委員会（大久保暢子理事）社会貢献活動

① 第 45 回学術集会において市民公開講座を開催

第 45 回学術集会で市民公開講座「健康寿命をのばす「筋肉貯金」！～何歳からでも間に合うカラダづくり～」を開催する。

日時：2025 年 12 月 7 日 14：30～15：30（予定）

会場：朱鷺メッセ 2 階スノーホール B

講師： 谷本道哉氏（順天堂大学スポーツ健康科学部教授）

② 次世代の看護学研究者発掘・育成事業の展開

・次世代の看護学研究者発掘・育成事業として、中高生を対象とした「次世代研究者発掘育成プログラム」を発案し検討ならびに実施を行った。

・「次世代研究者発掘育成プログラム」は、「人の幸せにつながる科学を探求しませんかー看護学への招待ー」をメインテーマとして、「次世代研究者の発掘育成プロジェクトのページを 2023 年に立ち上げた。サイト内では、中高生が視聴する「未来の看護研究者となる皆さんに伝えるストーリー」として看護学研究者のドキュメンタリー動画が掲載されており、さらに、「看護学の研究者として生きる」のサイトページでは、現在 6 名の若手看護学研究者のインタビュー記事が掲載されている。また他サイトページでは国内外の看護学研究者の状況を情報発信した。

・次世代研究者発掘育成プログラムのコンテンツを題材にインスタグラムを立ち上げ、情報を公開した。さらに看護学研究者の研究テーマや看護について考えていることなどをインタビュー形式で動画撮影を行い、計 50 本のショート動画を発信した。
上記のドキュメンタリー動画は YouTube より
フルバージョン（https://www.youtube.com/watch?v=78pjvsQpGMg&t=22s）と
ショートバージョン（https://www.youtube.com/watch?v=INoJ6ew0ark）として公開中であり、2 例目のドキュメンタリー動画が今期中に完成予定である.

2.旧広報委員会（西村ユミ理事）広報活動

① ウェブサイトの維持・管理・改善・リニューアル

・本会公式ウェブサイトの維持・管理・改善を事務所と協力のうえ定期的に行った。

・委託業者と委員、事務所とでウェブサイトのリニューアルに取り組み、2025 年 3 月 31 日に公開した。自動翻訳を活用した英語ページを新規作成し、日本語ページと概ね同様の内容となった。

② 学術集会等の広報活動

・第 44 回学術集会の様子を記録として本会ウェブサイトに掲載した。

・第 45 回学術集会の市民公開講座の広報活動、プレスリリースの作成・配布を行った。カメラマンを手配し、当日写真撮影を行い、公開する予定である。

③ 委員会成果物の公表

・JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2023 年度表彰論文の追加掲載を行った。

・2024 年度の表彰論文の紹介方法について、映像を用いた方法を試行公開した。

④ 広報用マスコットキャラクターの活用

・学会マスコットキャラクター（ジャンとスゥ）を第 44 回学術集会にて活用するとともに、マスコットキャラクターを用いた映像を広報に活用するための方法について検討した。

⑤ デジタル広報の推進

・**Facebook** ページ（会員が交流できる会員フォーラム）を活用し会員と交流した。

・第 44 回学術集会の様子を記録する方法に映像を取り入れ、一般の方々への学会活動の広報を進めた。

⑥ 戦略的広報

専門家にコンサルテーションを受け、効果的かつ戦略的広報を推進した。

(10)看護倫理検討委員会（任和子理事）

本委員会は、看護学に関する倫理を検討し、看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応、研究者のモラル向上に向けた活動、看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討と社会に向けた見解の発信を実施する。

① 理事長から、既に第 44 回学術集会で発表した抄録の取り下げ申請に関する委員会の見解を求められた。申請理由を検討し、委員会からの質問とその回答文書に基づき再度慎重に審議した。その結果、「取り下げ手続きを進めることが妥当である」との結論を導き、2025 年 4 月に報告書を提出した。

② 看護学が関連する倫理に関する講演会開催に向けて、検討を開始した。

(11) 利益相反委員会（山本則子理事）

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大な COI 状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

・利益相反マネジメント指針・細則に則り、役員・委員、和文誌・英文誌投稿時およびセミナー等の発表者・講師等の利益相反申告依頼を継続している。

・日本看護科学学会における学術活動の利益相反と諸規則との整合性を検討した。

・2024 年 4 月から学術集会における発表者を対象とした利益相反申告システムの運用を開始し、現在まで大きなトラブルなく稼働している。

・（2025 年 9 月末時点　会員：1754 件、非会員：7 件）

(12)研究倫理審査委員会（山本則子理事）

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

・ 研究倫理審査の実施

2025 年 9 月に会員より研究倫理審査申請に関する問い合わせがあり、当倫理審査委員会の対象外と判断してその旨を回答した。

(13)災害看護支援委員会（西村ユミ理事）

・災害発出時の緊急調査について、実施の必要性等について常時検討した。

・看護系学会、および防災学術連携体等と連携し、関連情報を HP に掲載して周知した。

・災害に関する関連学会との情報共有の方法について検討した。

・災害の現場で看護学領域研究に求められる課題を議論し、委員会の役割やニーズを検討した。

(14)若手国際化・研究助成委員会（吉沢豊予子副理事長）

本委員会は若手会員の国際的活躍と研究助成の支援を目的とする。

・2025 年 6 月に若手研究者助成選考委員会と研究助成選考委員会が統合したため、規程類を更新した。引き続き改定を検討する。

・各助成の詳細は以下のとおりである。

1．若手国際化研究助成

① 若手研究者が国外で開催される学術集会へ出席するための助成(上限 50 万円)

・ 2022 年度から随時募集としている。

・ 2 件申請があり、どちらも採択とした。

氏名（敬称略）	計 画 名	国際学会名名称	金額
滝沢　知大	EXPLORING THE RELATIONSHIP BETWEEN CELLULAR SENESCENCE AND OXIDATIVE STRESS IN WOUND EXUDATE OF PRESSURE INJURIES: A PRELIMINARY STUDY	The 35th Conference of the European Wound Management Association	256,390 円
村本　美由希	セルフ・コンパッションを題材とした出産育児準備教育プログラムの開発とプログラム作用理論の解明	17th International Family Nursing Conference	317,000 円

② 若手研究者が海外留学するための助成

(留学期間 1 ヵ月～6 ヵ月未満…上限 100 万円、6 ヵ月以上…上限 200 万円)

・ 2022 年度から随時募集としている。

・ 2025 年は 3 件申請があり、委員会で内容を精査し、以下 2 件採択とした。

氏名（敬称略）	計 画 名	金額
周藤 美沙子	米国の麻酔看護教育に学ぶ、日本の医療体制に即した麻酔看護の明確化 ― 職業的アイデンティティ確立に向けた教育的アプローチの検討 ―	300,000 円
深田 悠花	日系高齢者施設における POLST 運用の実態と文化的背景に関する予備的考察	300,000 円

③ JANS45 にて海外留学者の帰国後発表を 2 名実施。12 月 6 日（土）

2．研究助成

年度ごとに以下 2 種の研究助成を行っている。

・挑戦的課題研究助成　対象：正会員（大学院生・ポストドクター）

・指定課題研究助成　対象：正会員（除く大学院生・ポストドクター）

①　助成状況

1)2023 年度

挑戦的課題研究助成…延長分 4 件のうち 3 件完了　1 件は再延長

指定課題研究助成…延長分 2 件のうち 2 件完了

2)2024 年度

挑戦的課題研究助成…11 件のうち 9 件完了　1 件は延長

指定課題研究助成…4 件のうち 4 件完了

3)2025 年度

挑戦的課題研究助成　採択者（振込済）

	氏名（敬称略）	所属先	計画課題名	金額（円）
1	重田一樹	東京大学大学院	創傷被覆材中の細胞老化抑制による難治性創傷の予防法の開発	500,000
2	坂下智珠子	北里大学病院 聖路加国際大学	急性期病院を退院し在宅療養する成人患者の QOL を向上させる移行期ケアプログラム（がん性疼痛管理版）の開発と実装	300,000
3	渡部大地	北海道大学大学院	集中治療室における診療看護師(NP)配置と患者死亡割合との関連 ー多施設データによる後ろ向きコホート研究ー	500,000
4	眞鍋千惠	横浜市立大学大学院	術後睡眠障害が起こる疼痛評価スケール NRS 値の明確化 ー術後睡眠障害の予防を目指してー	500,000
5	前澤美佳	岐阜薬科大学医薬品情報学研究室	非抗がん剤の血管外漏出に関するガイドラインの開発に向けた基礎的検討：予防と早期発見に焦点を当てた評価	500,000
6	安里舞子	大阪大学大学院	小学校 5・6 年生の養育者の食事における共同養育と、子育てスタイル、子どもの QOL との関連	500,000
7	川端京子	奈良先端科学技術大学院	看護管理者を対象としたキャリア・カルトグラフィを題材とするプログラムの提供方法の開発	500,000
			助成金合計	3,300,000

指定課題研究助成　採択者（振込済）

	氏名（敬称略）	所属先	計画課題名	金額（円）
1	臼井由利子	東京大学大学院	出産に向けた女性の希望とサポートニーズ ：国際共同研究 BESt-Japan	1,000,000
2	梅田尚子	福井大学学術研究院	プレコンセプションケアの新たな介入方略構築を目指した妊娠期胎盤中の脂肪酸代謝関連因子と出生体重の関連解明	1,000,000
3	陳三妹	広島大学大学院	マラウイの HIV 感染ハイリスク妊婦における曝露前予防投与（PrEP）利用の意思決定に関する質的研究	1,000,000
			助成金合計	3,000,000

4)2026 年度

挑戦的課題研究助成…上限を 50 万円とし、2025 年 9 月 8 日より募集を開始した。（期限 2025 年 10 月 31 日）

指定課題研究助成…2026 年度は募集を休止

※2026 年度の研究助成を縮小した理由は、長期継続に向けた財源確保のためである。

② JANS45 研究助成セッションにての発表。対象 21 件のうち 12 件が 3 セッションに分かれて実施。研究助成を受けた者は、規則で報告後 2 年以内の学術集会で発表することとなっている。

(15)会則等委員会（任和子理事）

本委員会は、定款や各種規定等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行う。

① 理事長からの依頼に基づき、第6章学会総会に関する改正案を検討

公益社団法人の決議機関は社員総会であり、定款第4章に「社員及び社員総会」が規定されている。日本看護科学学会では、第6章に「学会総会」が規定され、学会総会の権限が「本会運営上の重要事項について、理事会に対して意見を具申する。」とされ、社員総会と同様の項目が規定されている。しかし、法人法による必要条件ではないこと、近年学会総会での決議がないこと、会員の意見を広く聴取するためにWeb会議の可能性も模索したいことの理由により、理事長から改正案作成の依頼があった。この依頼を受けて、改正内容を検討し、2025年6月社員総会にて改正となった。

② 理事長からの依頼に基づき、定款の修正に伴う下位規程等の見直しを検討

また、研究助成規程、研究助成資金取扱細則、研究助成選考細則、及び研究助成選考に関する申し合わせについて、各規程の関係性、内容を確認し、「研究助成規程」、「研究助成資金取扱内規」、及び「研究助成選考内規」として整備し、改正案を理事長に提出した。若手研究者助成規程についても同様に整備し、改正案を理事長に提出した。

③ 理事長からの依頼に基づき、研究助成関係規程（9規程・内規等）を点検整備

若手研究者助成規程と研究者助成規程を統合する方針が出され、統合案を報告、2025年6月の理事会にて改正された。

(16)総務委員会（黒河内仙奈理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した（会員数等については、総務報告を参照）。

① 入会審査、会員管理の実施

・入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。2025年の入会審査数は、822名であった（2025年10月現在）。

・安定した会員の確保に向けて、会員管理システムの見直しについて検討した。

② 会員資格基準の変更および学生会員の創設

・入会対象の拡大を図るため、会員資格基準の変更および学生会員資格の見直しを検討した。

③ 学会事務所の運営

・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。

・事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員との面談を実施し、各職員の担当業務や業務遂行状況の把握を行った。

・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

(17)選挙管理委員会（武村雪絵委員長・黒河内仙奈理事）

2025年選出理事候補者選挙実施

・理事選挙に関する公示文書、投票要領、選挙人名簿と被選挙人名簿の作成、投票手順、今後のスケジュール等について確認を行った。（送付資料　郵便料金について見直し）
・郵便料金値上がりや郵送日数の増加により送付資料や回答方法を見直した。投票手順書等は HP にて確認していただくようにし、郵送物を少なくして郵送費を抑えた。また、当選通知や当選者の諾否回答は今まで郵送にて行っていたが、会員管理システムのメールおよび回答システムにて回答するよう変更した（司法書士に確認をし、本人のみが必ず回答できるシステムであれば問題ないとのことで、そのように設定し行った）。
・2025 年 1 月 15 日に公示文書をホームページに公開し、代議員にメール配信を行った。
・2025 年 1 月 24 日に公示文書と投票要領（選挙用 ID・パスワード）を代議員に郵送した。
・2025 年 2 月 3 日から 24 日に電子投票を実施、第 5 回選挙管理委員会を 2 月 25 日に開催、立会人のもと開票を行い当選通知の送信をした。
・2025 年 3 月 14 日に諾否回答が完了し、候補者（11 名）全員からの承諾が得られた。
・2025 年 4 月 7 日の第 3 回選挙管理委員会で理事名簿を作成し、5 月 20 日の第 1 回理事会に選挙報告とともに提出し承認された。
・2025 年 6 月定時社員総会にて理事名簿が承認された。

(18) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会（JANA）（吉沢豊予子副理事長）

・意見交換会に参加した。
日程：2025 年 1 月 15 日（水）18：00～19：30
開催形式：Zoom による Web 開催
・APN 制度推進委員会　シンポジウム開催について会員に告知した。
1 回目：2025 年 2 月 16 日（日）　13:00～16:00
目的：関係諸団体との情報共有と連携による APN 制度推進にむけた課題の再定義について議論する
開催形式：Web 開催
2 回目：2025 年 3 月 16 日（日）　13:00～16:00
目的：APN 制度推進のための学会連携プラットフォームの構築について議論する
開催形式：Web 開催
・その他、JANA から提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

・看護系学会等保険連合の 2025 年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ 5 名の応募があり、社会貢献委員会で審査し以下の結果となった。
承認：4 件　不承認：1 件
・看保連理事として、各会議並びに理事会に出席し、看保連 20 周年事業の企画をおこなった。

③ 日本学術会議（吉沢豊予子副理事長）

・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

・日本学術会議公開シンポジウムの後援となり、会員に開催情報を提供した。

④その他の機関（吉沢豊予子副理事長）

一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼で 2025 年度は 1 名の会員を個別調査部会に推薦した。本協力は 2016 年度から行っており 57 名の会員を推薦してきている。

第１号議案

会員資格基準の変更

会員資格基準変更の理由

① 実践者および看護学以外の分野からの入会を促進するために必要な「業績」の条件に関する変更

② 学生会員が利用できるサービスを拡大するため、学生会員の基準およびサービスの範囲に関する変更

公益社団法人日本看護科学学会　会員資格基準　改正案（比較表）

提案	現状	変更の根拠・備考
第 2 条　本会正会員の選考は、次の各号の一つに該当し、第 5 条に定める基準を満たす者について行う。	第 2 条　本会正会員の選考は、次の各号の一つに該当し、第 5 条に定める業績基準を満たす者について行う。	
(1) ＜現行どおり＞	(1) 看護学を専攻し、大学（短期大学を含む）及び研究所等において、教育、研究に従事している者	
(2) ＜現行どおり＞	(2) 看護を実践し、看護学に関する業績のある者	
(3) ＜現行どおり＞	(3) 看護学に関連する研究業績を有する者	
(4) 看護分野における研究、活動、教育に関心のある者		（４）の新設

第 5 条：本会正会員として入会するために必要な基準の条件は、次の各号のいずれかを満たすものとする。 (1) ＜現行どおり＞ (2) ＜現行どおり＞ (3) ＜現行どおり＞ (4) 正会員の紹介がある	第 5 条：本会正会員として入会するために必要な研究業績の条件は、次の各号のいずれかを満たすものとする。 (1) 看護学に関連する学術雑誌への掲載論文 1 編以上（論文表題、掲載誌名と巻号頁、発表年月、申込者を含めた共同研究者名を明記すること） (2) 看護学に関連する著書 1 冊以上（分担部分を明記すること） (3) 看護学に関連する修士論文又は博士論文、若しくは修士論文に代わる特定課題研究 (4) 看護学に関連する学会等での研究発表 1 件以上（演題名、学会名、抄録誌への掲載頁、発表年月、申込者を含めた共同研究者名を明記すること）。但し、当該年次の本会学術集会への応募演題が採択された場合は、この発表を 1 件と認める。	
第 3 条　＜現行どおり＞ (1) 看護基礎教育課程に所属している学生 (2) ＜現行どおり＞	第 3 条　本会学生会員の選考は、次の各号のすべてを満たす者について行う。 (1) 看護基礎教育課程又は看護学に関連した専攻の大学院（修士課程又は博士前期課程、若しくは博士後期課程）に所属している学生 (2) 正会員 1 名の紹介があること	

附　則 1　2025 年 11 月 30 日一部改正、同日より施行する。 2　改正前の規則で入会した学生会員は学生証明書等に記載された有効期限まで有効とする。	附　則 2024 年 6 月 15 日一部改正、同日より施行。但し第 1 条及び第 3 条等の学生会員の資格新設に伴う変更については、2025 年 1 月 1 日より施行する。	